

みやぎ生協・コープふくしま

サステナビリティ レポート 2021

～持続可能な社会のための活動報告書～



みやぎ生協・コープふくしまのめざすもの

わたしたちは、協同の力で、人間らしい暮らしを創造し、
平和で持続可能な社会を実現します



「みやぎ生協・コープふくしま サステナビリティ・レポート」 発行にあたって

みやぎ生協は1982年の創立以来、地域住民のコミュニティの中核として宮城県内における多数の市民を代表する組織となることを目指してきました。2019年3月には福島県の2生協と組織合同し、みやぎ生協・コープふくしまとして、さらに大きな範囲でより良き地域社会を創るために活動しています。

生協が掲げる「協同」は、市場経済で強調される「競争」がもたらす諸問題を解決する考え方です。弱肉強食の世の中ではなく、人が互いの人間性を尊重し合い、助け合うことで、「誰一人取り残さない」世の中を目指すことにつながります。これは2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）」の基本理念と一致します。

現在、私たちは地球的規模で生じている気候変動など環境問題や飢餓、貧困など人の生存を脅かす諸問題に直面しています。また、一昨年末から人類社会を脅かしている新型コロナウイルス感染症拡大の下で、社会的格差など現代社会の諸問題が浮き彫りになりました。それらも含め、人類が解決すべき諸課題に対し、SDGsは具体的な指標を定め、社会全体が取り組むことを求めています。それゆえ、社会の一員として私たち生協もどのように貢献するかが問われています。

このサステナビリティ・レポートは、みやぎ生協・コープふくしまの事業・活動とSDGsの17目標の関係を、メンバー（組合員）、お取引先様、自治体、関係団体などの皆様にわかりやすく伝えるためにまとめたものです。

東日本大震災以来取り組んできた被災者支援はもちろん、この間積極的に取り組んできた再生可能エネルギーによる発電事業をはじめとした環境活動、開始から50年を経た「顔とくらしの見える産直 めぐみ野」、生活相談・貸付事業、コープフードバンクなど様々な事業・活動を掲載しています。また、コロナ禍でメンバー（組合員）の生活を支えるために奮闘した姿も見ることができますので、是非ご一読いただければ幸いです。

みやぎ生活協同組合
理事長

冬木 勝仁



Contents 目次

1 2011.3.11.東日本大震災

未来へつなぐ教訓ときずな	5
古今東北	9

2 変わる生活様式

これからも「日常」のために	11
---------------	----

3 みんなでつくる豊かなくらし

食品の安全安心	13
生産者と消費者をつなぐ	15
地産地消でつながる地域 ふくしま大豆の会	18
地域コミュニティと学びの場の提供	19

4 安心してくらせる地域づくり

買い物にも安心を	21
多様な買い物のかたち	22
社会福祉の向上	23
セーフティネットとしての役割	24
自治体・民間団体との連携	25

5 公正で人にやさしい組織づくりのために

働きやすさとダイバーシティ	27
誇りと展望を持てる風土づくり	28

6 地球とエネルギーの未来のために

循環型社会の構築～3R～	29
2030年目標「CO ₂ 排出量 65%削減」	30
再生可能エネルギーの普及	31
メンバー（組合員）が進める環境活動	33

7 平和な社会の実現を目指して

平和な国際社会に向けて	34
-------------	----

8 ガバナンスと概況

経営体制と意思決定	35
みやぎ生協とコープふくしまの組織合同、 コープ東北サンネット事業連合との関係	36
内部統制	37
組織概況	38

みやぎ生協・コープふくしまのステークホルダー

メンバー（組合員）を含む消費者、職員、取引先・めぐみ野生産者、地域社会（自治体、団体、他生協）、地球環境（未来の人々）

掲載範囲

● 対象期間 2020年3月21日～2021年3月20日（特別記述がない場合）

● 対象範囲 みやぎ生協・コープふくしま、コープ東北サンネット事業連合とその子会社・関連団体
本紙でご紹介する取り組みの該当範囲を示すため、見出しの横に以下のよう
なアイコンを記載します。



.....みやぎ生協



.....コープふくしま



.....コープ東北

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



あらゆる場所のあらゆる貧困をなくそう



誰もが栄養のある食べ物を手に入れられるようにして、持続可能な農業を応援しよう



誰もが健康的で幸せな生活を送れるようにしよう



誰もがきちんと教育を受けられ、大人も学べる機会を持つてもらうよう



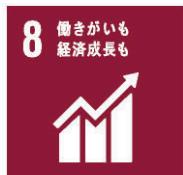
男女平等を実現し、女性が活躍できる機会を増やそう



誰もが安全な水ときれいなトイレを利用できるようにしよう



誰もが安全で持続可能なエネルギーを利用できるようにしよう



持続可能な経済成長を進め、誰もがやりがいを感じられる仕事を持てるようにしよう



産業発展のための強いインフラを整え、新しい技術を開発しよう



あらゆる場所の不平等をなくそう



安全で安心してくらし続けられる街づくりを進めよう



商品を作る人も使う人も、地球と人にやさしい行動をとろう



気候変動や異常気象に 対して、対策を考え実行しよう



持続可能な漁業や開発で、海の豊かさを守ろう



森林や里山を守り、生態系と生物多様性も守ろう



平和な社会を実現し、誰もが公平な司法にアクセスできるような制度を整えよう



あらゆる立場の人、団体が協力し合い、これらの目標を達成しよう



2030年に向け
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

みやぎ生協・コープふくしまの理念、
事業、運動は、SDGsと多くの部分で
重なり合っています。



コープSDGs行動宣言

私たちは、2018年に日本生協連で採択された「コープSDGs行動宣言」に賛同し、持続可能な社会づくりにこれまで以上に取り組みます。

誰もが安心してくらし続けられる地域社会づくりに参加します

私たちは、誰一人取り残さず、安心してくらし続けられる地域社会づくりに参加します。自治体や諸団体との連携を大切にしつつ、地域の見守り、移動販売や配食事業など、生協の事業や活動のインフラを活用し、地域における役割發揮を進めます。



健康づくりの取り組みを広げ、福祉事業・助け合い活動を進めます

私たちは、食生活、運動、社会参加の視点から健康づくりを進めます。安全・安心はもとより、より健康な食生活に向けた商品事業と組合員活動を推進します。生活習慣病や介護予防など「予防」を重視し、福祉事業や助け合い活動を広げ、自治体や諸団体と連携し、地域包括ケアシステムのネットワークに参画します。



地球温暖化対策を推進し、再生可能エネルギーを利用・普及します

私たちは、地球の持続可能性を搖るがす気候変動の脅威に対して、意欲的な温室効果ガス削減目標（2030年環境目標）を掲げ、省エネルギーと再生可能エネルギーの導入に積極的に取り組みます。再生可能エネルギーの電源開発や家庭用電気小売を広げ、原子力発電に頼らないエネルギー政策への転換をめざします。



持続可能な生産と消費のために、商品とくらしのあり方を見直していきます。

私たちは、「つくる責任」と「つかう責任」の好循環を発展させ、持続可能な社会づくりをめざします。国内外の人々、そして限りある地域資源へ思いをはせ、商品の開発と供給を進めます。学習活動を通じて、エシカル消費や持続可能な社会に関する理解を促進し、私たち自らの消費行動やくらしのあり方を見直していきます。



ジェンダー平等（男女平等）と多様な人々が共生できる社会づくりを推進します

私たちは、地域における活動を通じて、社会のジェンダー平等と多様な人々が共生できる社会の実現に貢献します。女性も男性も、誰もが元気に、生きがいを持って働き続けられる生協づくりを進めます。



世界から飢餓や貧困をなくし、子どもたちを支援する活動を推進します

私たちは、誰一人取り残さない世界をめざして、世界が抱える問題についての理解を深め、助け合いの精神を貫き、ユニセフ募金などに取り組み、世界の子どもたちを支援します。「貧困」の連鎖をなくしていくために、子どもの貧困について学び、話し合う活動を広げ、子ども食堂やフードバンク、フードドライブなどの取り組みを進めます。



核兵器廃絶と世界平和の実現をめざす活動を推進します

私たちは、「核なき世界」の実現のために、世界の人々と手を携えて、核兵器を廃絶し、平和な社会をめざす取り組みを進めます。私たちは、次の世代に被爆・戦争体験を継承し、日本国憲法の基本原則である平和主義のもと世界平和の実現に積極的に貢献します。



私たち生協は、SDGs（持続可能な開発目標）に貢献することを約束（コミット）します。

私たちは、「生協の21世紀理念（1997年日本生協連総会決定）」のもと、助け合いの組織として、誰もが笑顔でくらすことができ、持続可能な社会の実現をめざし、様々な取り組みを進めてきました。誰も取り残さないというSDGsのめざすものは、協同組合の理念と重なり合っています。私たちは、あらためて持続可能な社会の実現に向けて取り組むことを、「SDGs行動宣言」としてまとめました。私たちは、以上7つの取り組みを通じて、世界の人々とともにSDGsを実現していきます。

2011. 3. 11. 東日本大震災

未来へつなぐ 教訓ときずな ~ふくしま~ 地震、津波、原発事故から 10 年が過ぎて

副理事長
ふくしま県本部長
野中俊吉



組合員とともに放射能と向き合う

10 年前、放射能の恐怖に押し
つぶされそうになりながらも、コー
プふくしまでは放射能学習会、外
部被ばく測定、内部被ばく測定、
食事に含まれる放射能測定、外部
被ばくの国内地域間比較など、組
合員自らの活動で、福島県の放射
能汚染程度を客観的に確認し、放
射能汚染に向き合う力を高めてき
ました。宅配企画で線量測定器の
販売、ガラスバッジによる外部被
ばく測定斡旋など、事業と連動し
ながら危機に向き合うことの大切
さも学びました。

同時に「各生協独自福島応援
企画」「福島応援隊企画」「東北
6 県宅配企画のがんばろうふくし



伊達市内での除染ボランティア活動

ま農產品応援ボックス企画（10 年
で 75 万セットのご利用実績）な
ど事業を通して福島県の農産物を
応援してもらう取り組みもできま
した。



組合員向け 放射能学習会

他生協からの学び

他生協から多くの方に支援に來
ていただいた中で、各生協のトッ
プの姿が強く印象に残っています。
原発事故直後の 4 月 2 日、南相
馬市からの要請で開催した応援市
では、コープおおいたの青木現理
事長が、使用済み買い物カゴを数



陰膳方式の食事調査



えて来客数を確認していた姿に学ばされました。また、2011年7月末にコープおきなわの山本理事長が「似たような経営環境に苦しむコープふくしまが、これだけの震災被害の中で何をしようとしているか学び（知り）たかった」とおいでになったほか、阪神大震災を経験された、当時の日本生協連浅田会長やコープこうべ元役員の方からは、自らの実力を見極めながら社会的要請に可能な範囲で対応することの大切さを助言いただきました。「事業経営をしっかりと維持してこそ地域貢献できるのだ」と諭されているような気がしました。

全国からの支援でつないだ命

ふりかえれば、大震災の地震でコープふくしまの12店舗中9店舗が天井崩落など甚大な被害を受け、数週間から2ヶ月ほど店頭販売を余儀なくされました。この状態からの復旧に全国各地から圧倒的な人的支援をいただき、事業復旧は急速に進みました。宅配事業では、原発事故直後、原発に近い相双センターで70%減、いわきセンターで50%減と宅配の利用件数が激減しました。これに対しで全国の生協から多数で長期の宅配の利用組合員拡大支援を受けることができました。店舗事業支援、宅配事業支援、共済金お見舞い

活動支援いずれも、まさにコープふくしま事業の命を吹き返す何にも代えがたいご支援でした。

おわりに

10年が過ぎ、原発事故を知らない世代に伝える課題、原発事故の二次被害ともいえる子どもたちの甲状腺検査の過剰診断問題、第一原発の汚染水処理問題など多くの課題がありますが、組合員とともに、ひとつずつ丁寧に向き合っていこうと考えます。



日本生協連 本田会長へ
「福島応援隊」協力要請訪問



南相馬応援市

未来へつなぐ 教訓ときずな ~みやぎ~

東日本大震災 10 年、当時、そしてこれから

常務理事 生活文化部・総務本部管掌
くらしの安心サポート部長
小澤義春



発災時に思いをはせて

2011 年 3 月 11 日から 10 年が経過しました。発災当時、共同購入では営業中の職員が自らの判断で自らの安全を守る行動が取られ、幸い津波の犠牲になることはありませんでしたが、みやぎ生協の店舗では地震や津波で大きな被害を受けました。

そんな苦しい中でも、阪神淡路大震災時のコープこうべの取り組みを学んでいたみやぎ生協の職員は、各事業所で自主的に行動していました。発災直後は電話やラ

イフラインが寸断し、大きな余震が続いていましたが、48 店舗（組織合同前：みやぎ生協当時）のうち 27 店舗が店頭販売を行い、翌 12 日には 44 店舗が営業。地域のメンバー（組合員）、県民のくらしを支える役割發揮に奮闘していました。



2011.3.11 大富店



2011.3.12 黒松店での店頭販売

メンバー（組合員）どうしのつながり

「困ったときはお互いさま」という言葉を形にした「こ～ぶくらしの助け合いの会」(→p23) は、メンバー（組合員）同士が家事援助など自宅で生活をする上での手伝いをする活動です。発災時、お手伝いする側の活動会員は、自宅に被害があるにもかかわらず、他の会員宅を訪問して自発的に安否確認を行っていました。中には倒れた家具に動転してうずくまっていた方を介抱したり、自宅の食料や水を届けたりしていたこともあります。

また「こ～ぶ委員会」(→p19) でも、避難所での炊き出しやサロ



2011.4.11 気仙沼で配達再開

ン活動、食器や生活用品などを集めて被災された方へ提供するなど、自発的に取り組んでいました。この自発的な活動がベースとなって、5月「みやぎ生協ボランティアセンター」がスタートし、「応急仮設住宅がなくなるまで活動を継続する」として、2020年度まで活動してきました。

多様なつながり

生協は「助け合いの組織」。「協同」は単に力だけでなく、心も寄せあうこと。そのことを実感する10年でもありました。事業復旧に向けて全国の生協から、発災翌日から人的・物的支援をはじめ、応援・励ましの寄せ書きや募金活動などを行っていただきました。

「めぐみ野」生産者、関係団体、お取引先様の炊き出しやお振舞い企画への参加や、被災地復興をめざした「食のみやぎ復興ネットワー



たくさんの応援の寄せ書きも、全国の生協から届けられました。

ク」への結集と「古今東北」への発展など、生協の特色を生かした多様な方々とのつながりをとおして、被災者と被災地、生業と地域産業の復旧・復興に取り組むことができました。

これからも一緒に

震災から10年がたち、今働いている職員のおよそ半分は、発災時に店舗、共同購入、本部や各部の職員が何を考え、どのように行動したかを経験していません。当時の取り組みを風化させること



なく、「生協はくらしを支えるインフラなんだ」と奮闘した取り組みを継承していきます。そして、「生協が地域にあってよかった」と言っていただけるみやぎ生協を、職員をはじめお取引先様、「めぐみ野」生産者・団体、関係する皆さんと一緒に創り上げていきます。



2011.3.11 避難所となっていた名取市館腰小学校でのふれあい喫茶



2016年 古今東北デビュー



東北の食と産業を伝える“古今東北”

東
北

株式会社 あんしん生活



商品を通して感謝を届けたい

ここまで数えきれない方々に助けていただき、少しずつ、自分たちが納得できる商品ができるようになってきました。実はその礎となる商品が古今東北の「サクッとかき揚げ」で、開発から販売まで本当にお世話になりました。コラボした星さんの小松菜は瑞々しさや食感が素晴らしい、他の自社製品にも使わせていただいている。



株式会社 あんしん生活

取締役 企画営業部部長 津田 勇輝さん

機械ではマネできない食感



コープふくしまの紹介で「古今東北で福島県産小麦を使った手延べ麺を作れないか」というご相談がありました。会津地方にある「ゆきちから」という非常にいい小麦を使い、舌触りがよくコシも強い商品になりました。とても手間のかかる手延べ製法で、安全に気を配りながら愛情をこめて作っていますので、ぜひご賞味ください。

株式会社やない製麺

代表取締役 箭内 一典さん



● 生協以外の販路

みやぎ生協・コープふくしま以外にも販路を広げるために、子会社(株)東北協同事業開発のもとで開発される「古今東北」商品。全国の生協のほか、地域の小売店、楽天市場でのネット販売にも広がり、取り扱うアイテム数も増え続けています。



2020年11月に5周年を迎えた古今東北ブランド。東北6県の食材や加工品を全国に発信し、販路を拡大することで復興と地域振興を後押しすることをめざしています。商品開発では、宮城学院女子大学の学生とのコラボ商品も生まれています。



「浜のために」力を合わせて

浜と浜の人々がいてくれたからこそ、今があります。震災で大変な時でしたが、「今こそ浜を、浜の人たちを助けて再生させなければならない」との思いから、みんなで力を合わせ、一歩ずつ前に進んでいきます。「ほやのへそ」はほやの中でも一番おいしい部分で、クセやえぐみがなく、ほやが苦手な方にもおすすめの逸品です。



本田水産株式会社

代表取締役社長 本田 太さん

山形の歴史あるブドウを発信



ナイアガラは明治のころから作られている品種で、花のような強い香り、少しオイリーな香り、ほのかなライチのような香りを漂わせるブドウです。親しみやすい甘口のワインに仕上げることで、色々な方に楽しんでいただけます。しっかりとした酸味の中に甘みを感じる、さわやかなワインに仕上がっています。

株式会社 高畠ワイナリー

取締役営業部長 高橋 和浩さん



(株) 東北協同事業開発
取締役 開発・営業部長

丹野 潤一

殻にとらわれない 自由なブランドに

古今東北は、震災復興や地域経済の活性化という趣旨に沿ってさえいれば、自由な発想で生産者を開拓していく。

食のみやぎ復興ネットワークが発展して古今東北になったように、古今東北も将来に向けて変化させないといけません。このブランドを通してどうやって地域に貢献するのか。生協の役割を広く果たしていくプラットフォームとして、自由に動けるこのブランドが発展していくれば、さらに色々な道が生まれると思います。

2 变わる生活様式

これからも「日常」のために

2020年は外出への不安が広がり、ご自宅での食事が増える中、みやぎ生協・コープふくしまの店舗、共同購入・個人宅配への期待も非常に高まりました。日々感染対策を取りながら働く職員に対し、メンバー（組合員）の皆様からいただいた数多くの温かいお言葉の中から一部をご紹介します。

● 店舗職員へ

榴岡店へ

来店した際、サッカーボールをアルコール消毒しているのを見かけ、安心して利用できると感じました。また「入荷できない商品もあるが、流通を止めないよう努める」という店内アナウンスがあり、とても心強いです。

市名坂店へ

大変な状況のなか、いつも通りお店を開けてくださってありがとうございます。レジの方に笑顔で接客して頂き、ご自身もきっと不安な気持ちもあるでしょうに、なんだか涙が出そうでした。私たちが食べ物に困らないで生活できているのは、みなさんのおかげだと、今、身に染みています。

明石台店へ

今、店員の皆様は命がけで働いていらっしゃると思います。それでも接客はていねいで笑顔で、感謝の気持ちでいっぱいです。店員の皆様を守るためにも、自分自身のためにも、今は来店回数を減らし、混雑時を避け、マスク必須で譲り合う気持ちを大切に行動してまいります。



店舗では安心してお買い物いただくことを最優先に、消毒液を配置、支払セルフレジの拡大などの工夫を重ねています。日々色々なリスクを抱えながら毎日奮闘している職員には、感謝しかありません。緊張感が続く中で、メンバー（組合員）さんからの激励のメッセージは、職員の一番の励みになります。しっかり見てくださっているからこそ、より一層安全対策をしていかなくてはいけないと思います。

店舗運営部

部長 櫻井 敦

柳生店へ

生命の危険すらある最前線の中でいつも笑顔で対応、販売してくださりありがとうございます。買い物が終わった後はいつも「ありがとう」と自然に言葉が出るようになりました。どうか心身ともにご自愛くださいませ。一緒に闘いましょう。

鶴ヶ谷店へ

ありがとう

いつも利用させていただいている。

新型コロナウイルスの流行により

販売員の皆様の環境は厳しく

大変な日々だと思います。

そんな中頑張って下さい皆さんへ

感謝です!!



買い物をするあなたも
皆様に迷惑をかけない
ように注意します。お身体太めに。

● 共同購入職員へ

いわきセンターへ

- ・この大変な時期に通常通り来てくれる生協さんはありがとうございます。
- ・小さい子がいて外に出られないから本当に助かっています。
- ・この時期外出もできないですが、生協さんが来ることを毎週楽しみに待っています。

仙台北センターへ

気がめいる一方ですが、1週間に1度生協さんが配達に来てくださると少しホッとします。配達物が多くなっていたり、大変な状況だと思います。どうかお身体に気を付けていただければと思います。

福島南センターへ

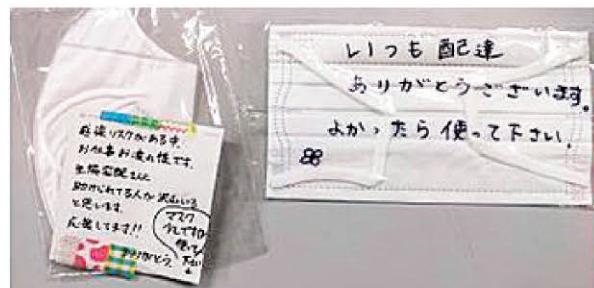
宅配は大切なライフラインです。早く対面でお話しえる日が来ることを祈っています。少しですが、マスク使ってください。

仙台南センターへ

いつもありがとうございます。私は医療関係の仕事をしているので、もし、万が一私からうつしてしまってはという怖さがあり、しばらく対面での受け取りを控えさせていただきます。配達のお仕事も気を付けてください。

古川センターへ

感染リスクがある中、お仕事お疲れ様です。生協の宅配に助けられている人が沢山いると思います。応援しています!



富谷センターへ

お変わりありませんか?お会いしないほうが生協さんもスムーズかと思い、そうしています。ちょっと寂しいんですけど。明日から暑くなるからお身体に気を付けてね。マスクは足りていますか?ほんの気持ちですけど使ってください。

柴田センターへ

個人宅配を利用していて本当に買い物が助かりました。今では生協さんを家族ともども頼りにし、毎週配達の日を楽しみに待っています。

郡山センターへ

- ・大変な状況のなか届けてくれて本当にありがとうございます。生協さんにお世話になって良かったです。安心して利用できるのでこれからもお願ひします。
- ・いつもありがとうございます。荷物の量も増えているかと思いますが、ゆっくりでいいので、これからもよろしくお願ひします。



コロナ禍の中で、職員はこれまで以上に「ありがとう」と感謝される機会が増えています。私たちの共同購入事業が社会貢献につながっているという職員のやりがいにもなっています。我々の使命はメンバー（組合員）さんの生活を支えること。業務が増える中、頑張ってくれている職員の皆さんに私自身大変感謝しています。2021年度からも、より一層多くの方のお役に立つため、職員で力を合わせ突き進んでいきます。

共同購入運営部

部長 安住 信哉



みんなごくくる 豊かな暮らし



食品の安全・安心

いつの時代も変わらない「安全な商品を安心して利用したい」というメンバー（組合員）の願いを叶えるため、生協は設立以来、安全でより良いものを供給することを事業の重要な柱としています。

みやぎ生協・コープふくしま 食品の安全・安心に関する基本方針

みやぎ生協・コープふくしまは、メンバー（組合員）が安心して商品を利用できる生協づくりを進めます。取引先および生産者と共に、取り扱う食品の安全管理のレベルを向上させ、食に関するメンバー（組合員）の願いの実現をめざします。そのために、以下の基本方針に基づく取り組みを進めます。

① 取引先、生産者、メンバー（組合員）とコミュニケーションをはかり、生産・仕入れ・製造・加工・メンバー（組合員）への供給の各過程を通して、食品の安全性を高めます。

- (1) 食品の安全マネジメントシステムで適切な課題・目標を設定して実行し、その進捗状況を検証し、定期的に見直し、継続的な改善ができる仕組みをより確かなものにし、運用します
- (2) 重大商品事故の兆候を見逃さない仕組みを向上させるとともに、万が一重大商品事故が発生した時の被害を最小にするため、対応方針・手順を明確にし、訓練します。
- (3) 安全な食品をお届けするために必要な職員の力量を高めるために、教育・啓発を計画的に行います。

② 食品の安全や衛生に関する法令・規制を順守するとともに、必要に応じてそれらに基づく内部ルールを制定し管理を進めます。

- ③ メンバー（組合員）と産直生産者の交流を活発にし、「顔とくらしの見える産直」活動の輪を広めます。**
- ④ 県内産・国内産食品の取り扱い拡大と食料自給率の向上に寄与する活動を進めます。**
- ⑤ 食に関する学習・体験の活動にメンバー（組合員）や他団体と協力して取り組み、安心できる食生活の実現に貢献します。**

この食品安全に関する基本方針は、生協内外に公表します。

2011年4月22日 みやぎ生活協同組合

● 商品の安全対策課

■ 食品の安全マネジメントシステム

各部署で、「食品安全・安心に関する基本方針」に基づく目標と課題を立て、進捗状況を確認しています。その取り組みの有効性は、内部監査や外部検査の結果も踏まえて評価し、目標に至らない場合には原因を明らかにして対策を補強することで改善を積み重ねています。



■お申し出対応教育

2008年「中国製手作り餃子農薬混入事件」のときに決意したこと・反省したことを風化させないため、採用時と毎年2月度に、事件の内容と教訓、信頼されるお申し出対応について職員全員が学習・確認しています。

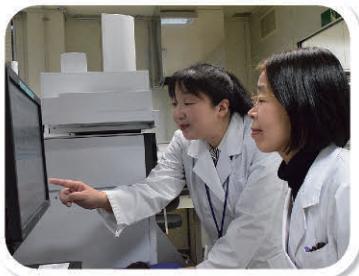


■重大商品事故管理システム

重大な事故につながりかねない兆候を見逃していないか、お申し出に対する判断や対応に誤りは無いか、お申し出となった原因解明と再発防止策はしっかりと行われているかなど、最後まで対応状況を監視しています。

● 商品検査センター

商品検査センターでは、店舗や共同購入・個人宅配で扱っている商品（インストア商品含む）について、微生物検査や残留農薬検査、放射性物質検査を行っています。



メンバー（組合員）の皆様に安心して商品を利用していただくために、生協の共同購入・個人宅配や店舗で取り扱う商品の安全性を科学的に検証しています。



● 2020年度 商品検査検体数一覧

微生物検査

	検体数
共同購入商品	1,965
店舗加工商品	1,711
店舗一般商品	705
COOP商品 生産部商品	647
取り扱い前商品など	2,603
合 計	7,631

放射性物質検査

	検体数
「めぐみ野」品、コープ東北産直	152
COOP商品	15
古今東北	3
アクアクララ水	12
大豆の会	11
一般市場品（野菜・果物）	19
一般市場品（魚介類）	72
合 計	284

残留農薬検査

	検体数
「めぐみ野」野菜	332
「めぐみ野」米	26
一般商品	15
合 計	373

※すべて基準値内であることを確認しました。

※検査結果は、産地の栽培計画や管理向上のために活用しました。



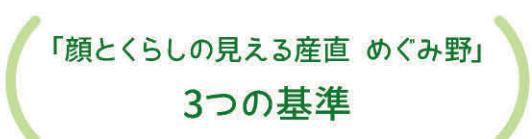
生産者と消費者をつなぐ

顔とくらしの見える産直「めぐみ野」

「顔とくらしの見える産直 めぐみ野」の取り組みを通して、自然環境や生物多様性、人を大切にする農業や漁業の維持・発展・食料自給率の向上に寄与しています。



● 消費者・生産者の共通の願いを実現するために



- ①だれ(生産者)がどこ(産地)で作ったかがわかること。
- ②どのように作ったか(栽培・飼育方法)がわかること。
- ③生産者とみやぎ生協のメンバー(組合員)の交流があること。

「顔とくらしの見える産直 めぐみ野」 50周年を迎えて

「めぐみ野」は 2020 年で 50 周年を迎え、新たなビジョンを掲げて引き続き活動の質と量を高めていきます。

SDGs の 17 の目標の一つに「つくる責任、使う責任」があります。持続可能な生産と消費のために、商品とくらしのあり方を見直し、エシカル消費を心掛けましょう。「めぐみ野」は同じ地域にくらす者同士が、ともに地域をよりよく変えていくこうとする活動です。「産消提携」の根本は生産者と消費者が対等の立場に立つこと、そのためにはお互いの「話し合い」を重視し多種多様なネットワークを形成することが重要です。

私たちの健康と
食の安全性を高め
ること、日本の第
一次産業を守り地
域経済・産業を活
性化し豊かな地域
を作ること目的
に、生産者・消費
者がお互いに交流

し学習しあっていくことが大原則です。多くの方が
この活動に参加していただくことで豊かな地域づく
りを実践していきましょう。



みやぎ生協
代表理事 専務理事
産直推進本部長

大越 健治

●「めぐみ野」と環境保全

みんなわくわく 生き物いっぱいの田んぼ



「めぐみ野」は、有機肥料の活用など、土づくりに取り組んでいます。

豊かな土は生物多様性にも貢献し、「めぐみ野」米産地である宮城県の大崎地方は、2017年、「世界農業遺産」に登録されました。田んぼを訪れる子どもたちは「どうしてこんなに生き物がいるの?」と目をキラキラさせています。

飼料用米の活用

「めぐみ野」の豚肉・鶏肉・大沼牛・鶏卵・角田丸森産牛乳・銀さけの生産には、飼料用米を加えたエサを使っています。飼料用米の生産と消費が増えることで水田が維持され、それが食料を自給する力の向上と環境保全につながります。



持続可能な養殖業と生物多様性

「めぐみ野」志津川湾產生かきの産地でもある南三陸町志津川湾戸倉海域でのかき養殖業は、2016年、日本初となる「ASC養殖場認証※1」を取得。また志津川湾は、藻場の多様性や希少な水鳥の重要な越冬場所であることが評価され、2018年ラムサール条約※2にも登録されました。



※1国際機関である ASC により、自然や資源保護に配慮し、安全で持続可能な養殖業を営んでいることを認める国際認証です。

※2湿地の保存に関する国際条約です。

● 生産者が作る「めぐみ野」旬菜市場



旬菜市場は「安全でおいしい野菜を食べたい」というメンバー（組合員）の願いと、「その願いに応えたい」という生産者の思いがつまっています。

生産者が規格と価格を決めて出荷し、種類が多くて鮮度も良く、生産者の自信作がそろっています。

● メンバー（組合員）と生産者の交流が育む「めぐみ野」

「めぐみ野」は同じ地域・日本に暮らす者同士がお互いに交流しながら、「ともに地域をよく変えていこう、豊かな地域をつくっていこう」という事業活動・運動です。例年、季節ごとの産地見学や収穫体験のほか、店舗などでの学習会を数多く開催し、年間約8,000人がこの活動に参加していますが、2020年度は新型コロナウイルスの影響で、活動を縮小しました。



「顔とくらしが見える」関係は、メンバー（組合員）にとっての安心感だけでなく、「買ってくれる人がいる」「作り続けられる」という生産者の希望にもなります。

生産者の皆さんのが地域で農業や漁業、畜産業などを長く続けていくためにも、助け合う「協同」の力である「めぐみ野」の活動を大切にていきます。

● メンバー(組合員)と生産者との交流から生まれた「牛乳タオル1本運動」



1991年 タオル一本運動贈呈式

1991年、メンバー(組合員)で構成された産直牛乳委員会が鳴子上原酪農組合を訪問したとき、牛乳をしぶる際に使うタオルの消耗が激しいことを耳にしました。

そこで、ささやかな支援として、家庭でねむっているタオルの提供を広くメンバー(組合員)に呼び掛ける「タオル1本運動」が始まりました。おいしい牛乳の生産に励んでもらうために続けているこの活動で、2020年度は6,504本、累計13万本以上のタオルを届けています。

産消の懸け橋となる交流

「めぐみ野」の特徴は、生産者の方と交流ができます。例えば、いつも食べている野菜の「味が違う！」と感じたとことを伝えられますし、生産者からも「種や苗を変えたから」「時期が遅いから」と返してもらいます。お互いに意見を出し合えることが「めぐみ野」の良いところだと思います。

「めぐみ野」は農薬や飼育方法などの基準が厳しいため、生産は手間がかかります。そのことを伝えていくことも、私たちの大切な役割なのでないかと思います。



みやぎ生協
地域代表理事
反畠 明実さん

地産地消でつながる地域“ふくしま大豆の会”——



生産者・加工業者・消費者が連携し、福島県産大豆を使った安全安心な加工品を作っています。大豆の产地では、毎年「畑の学校」という活動の中で、消費者が種まきから収穫、みそ造りまで体験して生産者などと交流しています。2020年度は「おうちで大豆を育ててみよう」という企画を実施しました。



大豆キットを受け取る
「これから種まきします！」



思ったよりたくさん
収穫できました！





地域コミュニティと学びの場の提供

● メンバー(組合員)が主役の地域活動

生協では、メンバー(組合員)の意見を生協の運営に反映させるだけでなく、メンバー(組合員)自身が企画・参加し、交流することで地域のコミュニティ形成につなげています。2020年度は感染症対策を徹底し、オンラインなどを取り入れたりして活動を続けました。

■ こ～ぶ委員会(みやぎ)・コープ委員会(ふくしま)



地域のメンバー(組合員)が組織するコミュニティで、生協の取り組みや暮らしにかかわる様々なことを知り、学びながら、興味・関心のあることを自分たちで企画し、「楽しくてためになる」活動をしています。例年開催する「こ～ぶのつどい(みやぎ)」「ふれあいコープ(ふくしま)」という交流活動も主催しています。



■ 開かれた趣味と学びの場



地域の中でさらに豊かにくらしていくための「学び」「体験」の場として、参加者同士の交流を大切にする活動です。

興味・関心のあるテーマについて「もっと知りたい」というメンバー(組合員)のための集まりです。それぞれの分野で学んだことを、多くのメンバー(組合員)にも広げます。

調理、手芸、学習会など、くらしを豊かに彩るために講座を文化会館ウィズ(宮城県仙台市)、アイトピア(宮城県石巻市)で行っています。

● 子育て支援

■ ココイククラブ



「ココイククラブ」は、妊娠中から6歳未満の子どもを持つメンバー(組合員)を対象にした子育て家族を支援する無料の会員サービスです。専用サイトでは離乳食レシピやおすすめ絵本など、子育てに役立つ様々な情報を公開しています。

■ すくすくばこ



宮城県の新生児の誕生をお祝いし、その記念として思い出をしまっておける「すくすくばこ」を無料でお届けしています。箱の中には趣旨に賛同した協賛企業様からの育児グッズなどが入っています。



■子育てひろば（みやぎ）
■親子ひろば（ふくしま）



0歳～未就園児とご家族を対象としたサロン活動です。年のはいお子さんを持つ親同士で交流し、「子育てが楽しい」と思える時間になっています。また様々な親子企画をオンラインでも実施しています。

■子どもたちの食育を
すすめる活動



例年、多くの料理教室や食育イベントを開催しています。その中の食育活動「5 A DAY食育体験ツアー」は、宮城県内の小学校や幼稚園の授業でも活用されています。

■コープママのWebサポートクッキング



みやぎ生協の職員で野菜ソムリエとNPO日本食育インストラクターPrimaryの資格を持ち、普段子育てひろばや様々なイベントで活躍する「コープママ」。おうち時間が増えたご家庭を応援するため、「コープママのWebサポートクッキング」を月2回ほどのペースで配信しています。

Youtube チャンネルはこちら



■教育現場への支援



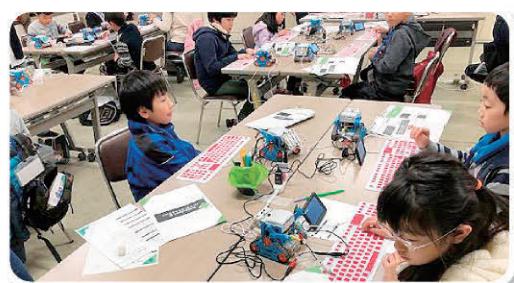
学校現場への支援

宮城県内の学校への講師紹介など様々な取り組みを通して、教育現場を幅広く支援しています。また、みやぎ生協の社会的活動の中で学校教育につながるものを掲載した『COOP 授業に役立つ学習ガイドブック』を、宮城県内のすべての小中学校へお届けしています。



子育て家庭への支援

小学校での英語教育やプログラミングの授業の推進など、学校現場は日々様変わりしています。そのような中、習い事の一環として、英語クラブ、プログラミングクラブなどを運営しています。





安心してくらせる 地域づくりのために



買い物にも安心を

● 店舗事業



買い物に困難を抱える方をサポートできるサービス・ケア・アテンダント資格者の育成や、バリアレスな店舗内装など、地域の皆さんのが買い物をしやすいお店づくりをめざしています。



■ 地域密着型コンビニ Family Mart + COOP

みやぎ生協の子会社が運営する「Family Mart + COOP」は、地域の暮らしに役立つ店舗として、七ヶ宿町、仙台市鶴ヶ谷に2店舗営業しています。お買い物だけではなく、地域のコミュニティの場として、「昔ながらの商店」のような地域密着型のお店づくりをめざしています。



● 共同購入・個人宅配、夕食宅配事業



高齢化が進む中、宅配事業に求められる社会貢献としての役割も大きくなっています。個人宅配時の在宅状況を、離れて暮らす親族へお知らせするメールサービスをはじめ、週に5回配達のある夕食宅配での見守り活動など、安心してご利用いただける取り組みを進めています。



多様な買い物のかたち

● 移動店舗せいきょう便



現在、宮城県6店舗、福島県1店舗を拠点に運行しているせいきょう便。年々深刻になる買い物困難地域のニーズに対応しながら、運行台数とエリアを拡大し続けています。



運行エリア



● 買い物代行サービスこ～ぷふれあい便



会員登録をしていただいた方を対象に、週2回、お店の商品を自宅まで届ける買い物代行サービスです。現在は宮城県内17店舗で取り組み、地域の見守り活動としても役立っています。



利用の流れ

ご注文内容の確認

▼
店で商品を選ぶ

▼
レジで会計

▼
セット

▼
積み込み

お届け・次回分注文聞き取り



社会福祉の向上

● 社会福祉法人 こーぶ福祉会



介護・福祉事業を担うこーぶ福祉会は、在宅高齢者向けの介護拠点を宮城県仙台市内の3ヶ所に設置しているほか、サービス付き高齢者向け住宅「こ～ぶなごみの杜桜ヶ丘」を開設し、高齢者の自立した生活を支援しています。また、待機児童対策として、事業所内保育園も仙台市に設置しています。



■ お店に地域包括支援センター

仙台市の委託を受け、こーぶ福祉会が運営している桜ヶ丘地域包括支援センターは、みやぎ生協桜ヶ丘店の一角にあります。お店の中にあることで、買い物ついでに気軽に寄ることができます。

● こ～ぶくらしの助け合いの会



「住みなれた地域で安心してくらしたい」「少しの手助けがあれば自立した生活が出来るのに」という思いを抱える会員どうしの助け合い、支え合いの活動です。高齢の方、障がいのある方、子育て中の方などのために、くらしの困りごとを、活動できる会員が有償でお手伝いしています。

活動内容例

- 室内の掃除
- 通院など外出の付き添い
- 食事作り
- 産前産後の支援
- 話し相手
- 草取りなど
- 買い物





セーフティネットとしての役割

● くらしと家計の相談室(生活相談・家計再生支援貸付事業)



家計見直しのアドバイスや、金融機関からの借り入れができるない場合の生活資金のご相談など、お金に関する様々なご相談をお受けしています。相談内容に応じて、公的支援や法的制度をご案内し、生協独自の貸付支援も検討します。また、宮城県および仙台市の委託を受け、「生活困窮者自立支援制度家計改善支援事業」の窓口として地域社会に貢献しています。

内容によってはすぐに弁護士などの専門家や消費生活センター、警察、行政などの公的機関等へつなぐなど、相談者の問題解決をサポートします。

● こども食堂の支援



子どもたちの「孤食」を防ぎ、地域の居場所として、無料または低価格で子どもたちに食事を提供する「こども食堂」。宮城県・福島県各地の民間団体と連携し、店舗の集会室・調理室などを提供しながら、子どもや地域の方々も含めた交流の場づくりを応援しています。

また、宮城県NPO法人せんだいこども食堂、宮城県内のこども食堂運営団体と連携して「みやぎこども食堂ネットワーク」を設立し、県内に点在する団体間の情報共有、支援の循環、寄贈された食品の活用などを促しています。



● コープフードバンク



お取引先様などから余剰食品の無償提供を受け、社会福祉団体などに無償で提供しています。食品の無駄をなくすとともに、誰でも安心してくらせる地域づくりをめざしています。

提供先団体・施設数





自治体・民間団体との連携

● 民間団体への支援

■みやぎ生協福祉活動助成金

地域福祉の向上をめざし、福祉活動に関する地域活動や研究活動を支援する事業に、毎年2回、総額1,000万円を上限に助成金を贈呈しています。贈呈式には助成団体が集まるため、分野を超えた団体の交流の場にもなっています。



2020年度上期 助成団体 (10団体)

- 宮城めぐみ韓日文化交流クラブ
- 特定非営利活動法人おりざの家
- 一般社団法人仙台先進学習サポート
- 骨髓バンク・つなぐ
- 市民公益活動団体石巻キャリア教育推進ネット
- 山元町子どもミュージカルプロジェクト
- 特定非営利活動法人仙台傾聴の会
- 和ごころコミュニケーションズ(名取子どもcafé向日葵)
- "La boite a fuets" (ラ ボット ア ジュウエ)
- 特定非営利活動法人キミノトナリ

2020年度下期 助成団体 (17団体)

- 一般社団法人さんらいず
- G・うさぎ
- 唐桑地区手をつなぐ育成会
- 特定非営利活動法人Thyme(タイム)
- 宮城県手話通訳問題研究会
- 桜会
- みさとひまわり食堂の会
- 認定特定非営利活動法人ハートフル福祉基金
- 認定特定非営利活動法人ロージーベル
- 気仙沼・南三陸地区住民の健康を支える会
- みやぎっ子『食』・『農』くらぶ
- 一般社団法人ReRoots
- 折立こども食堂
- ヤギヌマローカルリソース
- 地域支援団体Connect Feelings
- 特定非営利活動法人みやぎ・せんだい子どもの丘
- ほのぼの沖野地域食堂

■COOPトリプルカード みやぎスマイル基金



みやぎ生協と(株)日専連ライフサービス様が社会貢献を目的に協力して始まった「みやぎスマイル基金」。COOPトリプルカードでの決済1回につき1円を1年間積み立て、年に1度、社会貢献のために活動している組織・団体を助成しています。



コープトリプルカード

みやぎ生協、日専連加盟店、JCB加盟店で利用できるクレジットカードです。

2020年度 助成団体 (11団体)

- 一般社団法人 アート・インクルージョン
- いわぬま・こども食堂プラス
- 特定非営利活動法人 エイブル・アート・ジャパン
- 特定非営利活動法人 煌の会(かがやきのかい)
- 子どもと子育て世代の応援団マザーズみやぎ
- 特定非営利活動法人 スマイルシード

- 特定非営利活動法人 全日本障害者音楽連盟宮城支部
- 一般社団法人 フリースペースつなぎ
- 特定非営利活動法人 学びの庭ジェームストン
- 宮城県学童保育連絡協議会
- みんなで楽しみながら食べる食楽食堂

●自治体等との連携

■包括連携協定



みやぎ生協・コープふくしまは、宮城県内の自治体と包括連携協定を締結しています。「誰もが安心してくらせる地域づくり」に向か、これからも幅広い分野で連携していきます。

協定締結自治体一覧

宮城県10市町(2021年4月末時点)

- 宮城県 ●東松島市 ●石巻市 ●七ヶ宿町 ●塩釜市
- 大崎市 ●富谷市 ●仙台市 ●白石市 ●利府町
- 栗原市

■高齢者見守り協定



共同購入・個人宅配などの宅配サービスでは、配達時にいつもと違う状況に気付いた場合に行政窓口へ連絡し、安否を確認しています。宅配の強みを活かし、これからも地域貢献の輪を広げていきます。

2020年度メンバー（組合員）異変発見件数

共同購入・個人宅配	19
夕食宅配	13
ふれあい便	17
計	49



■首長・議員懇談会



宮城県岩沼市

県内の首長や県議、市議と、メンバー（組合員）との懇談会を年に1回行っています。「誰もが安心してくらせる地域づくり」というテーマで、生協と行政それぞれの取り組みについて情報交換し、メンバー（組合員）からは地域住民としての率直な意見を直接行政に伝える貴重な機会になっています。2020年度からは福島県でも首長懇談会を開催しています。



宮城県富谷市



福島県伊達市

参加者の声

- 書面回答をいただき、委員会で話しました。コロナ禍でも回答をもらえたことに、皆驚いていました。少しでも良い市になってほしいです。
- 各担当者の回答に付け足して、市長がよく説明してくださったので、内容の濃い懇談会でした。

- 町長が最後までいてくださったので、たくさんの交流ができました。とても親近感のある対応に、みなさん感謝していました。
- 地域が元気になるよう、行政と一緒に取り組めることを少しずつ増やしていきたいです。





公正で人にやさしい 組織づくりのために



働きやすさとダイバーシティ

みやぎ生協・コープふくしまでは、さまざまな雇用形態、ライフステージの人々が働き続けられる組織をめざし、多様な人材が活躍できる仕組みづくり、コミュニケーションの活発化に努めています。

● サークル活動支援制度

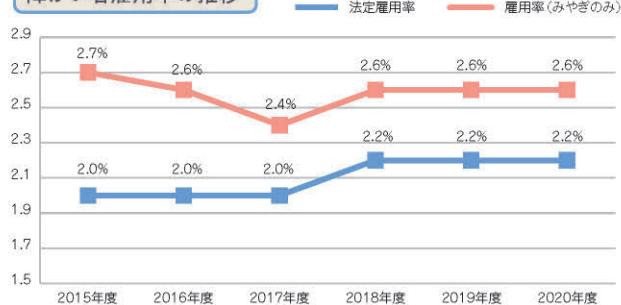
スポーツや趣味を通じて、部署・事業所の枠を超えたコミュニケーションを促すための支援制度。活動内容や活動計画などを申請してサークルとして認められれば、活動費用の一部を生協が支援しています。現在は27のサークルが登録されています。



● 障がい者雇用

現在、みやぎ・ふくしま合わせて112人の障がい者が店舗を中心とした事業所で働いています。それぞれの特性や能力を活かせるよう、周囲の職員や労政部が力を合わせ、何かしらの制約がある人も働く環境を作っています。受け入れる職員の理解と配慮の工夫も広がり、みやぎ生協への就労希望者は増えています。

障がい者雇用率の推移



育児・出産・介護休業

みやぎ生協・コープふくしまでは、職員が出産後や、育児・介護の最中でも働き続けられるよう、法定基準以上の制度を整備し、ポスター等で周知しています。また、労政部職員が個別の相談に応じています。

■出産・育児支援制度

制度名	内 容	2020年度利用人数
妊娠時短	1日1時間取得可能。	10人
育児休業	子どもが満3歳になるまで取得可能。	47人
育児時短	子どもが小学校1年生の終了まで取得可能（労働時間短縮）。	20人
子の看護休暇	小学校就学前までの第1子の場合は年間5日、 2子以上の場合は年間10日、1日単位で取得可能。	7人
配偶者出産休暇	通算2日以内で取得可能。	8人

■ 介護支援制度

制度名	内 容	2020年度利用人数
介護休業	対象家族1人につき通算1年取得可能（アルバイトは法定の通算93日間）。	12人
介護休暇	対象家族が1人の場合は年間5日間、2人以上の場合は年間10日間、1日単位で取得可能。	28人
介護時短	労働時間短縮	4人

リハビリ勤務制度

メンタル不調で休職した職員がスムーズに復職できるように、産業医、健康管理室、労政部が協力して支援する制度があり、復職後の就労支援を行います。

また、がんや難病と仕事を両立するために、該当部署、健康管理室、労政部が協力して支援しています。

誇りと展望が持てる風土づくり

● しごと報告カード

「しごと報告カード」は、仕事の中で発見したこと、改善のため
に実行したことなどを記入して提出するものです。優れた「しごと
報告カード」を半期に一度表彰します。

また、「しごと報告カード」で業務改善につながる提案も集め、さらなる生産性向上や、働きやすい職場環境づくりをめざしています。



地球とエネルギーの 未来のために

環境理念

みやぎ生協・コープふくしまは、メンバー（組合員）と職員の活動や事業における取り組みを通して環境負荷の低減と自然との共生に貢献し、持続的に発展する社会づくりに寄与します。

環境方針

みやぎ生協・コープふくしまは、食料品、衣料品、日用品雑貨等の商品をメンバー（組合員）に供給していることを踏まえ、環境理念を基に環境保全活動を進め、事業者としての社会的な責任を果たします。「低炭素社会、循環型社会、自然と共生した社会づくり」の3つの視点で、重点課題として以下の4項目を柱にメンバー（組合員）とともに取り組みます。

- ① 生協事業におけるCO₂の総排出量削減
- ② 事業からの廃棄物の削減・再資源化
- ③ 環境に配慮した地域社会の構築
- ④ 商品事業における環境配慮



循環型社会の構築～3R～

● メンバー（組合員）からの資源回収



店舗にリサイクルポックスを設置し、古紙や牛乳パック、プラスチック容器などを回収しているほか、自治体の事業に協力し、小型家電や使用済み食用油の回収ボックスを設置している店舗もあります。



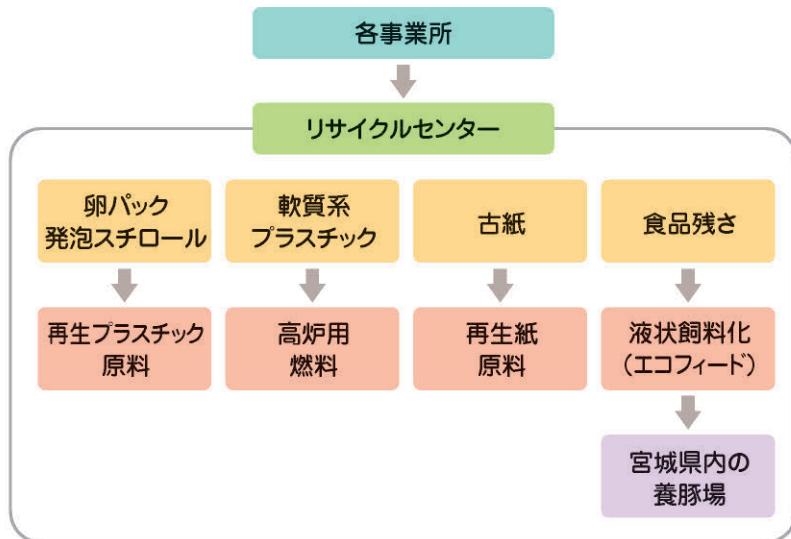
● みやぎ生協リサイクルセンター



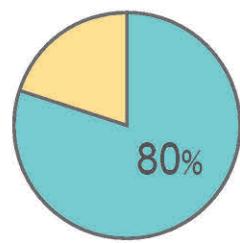
エコフィード製造機

みやぎ生協では、メンバー（組合員）からだけではなく、事業所からも廃棄物を集め、自ら分別、収集、再資源化しています。紙類やプラスチック類のほか、店舗の農産・惣菜部門で発生した食品残さも集めており、エコフィード化※して県内の養豚場に出荷しています。これにより、高い食品リサイクル率を維持しています。

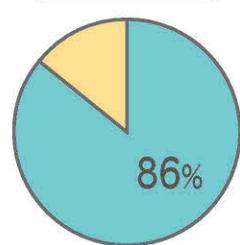
※乳酸発酵による液状飼料化



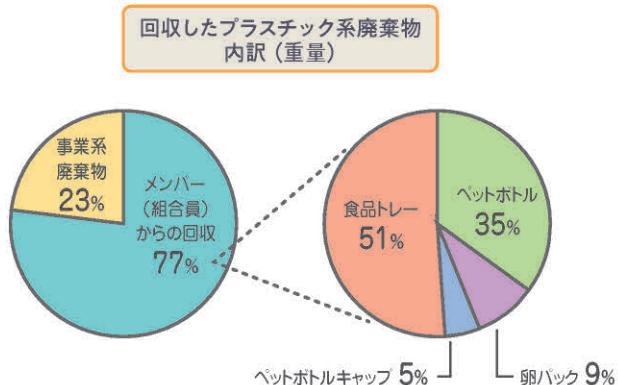
事業系廃棄物のリサイクル率



食品リサイクル率



■プラスチック資源 100%リサイクル



みやぎ生協・コープふくしまはレジ袋の有料化に取り組むほか、メンバー（組合員）や事業所から集められたプラスチックごみのリサイクルに取り組んでいます。回収したプラスチックごみは、再生プラスチック素材や高炉用燃料として、100%再利用されています。

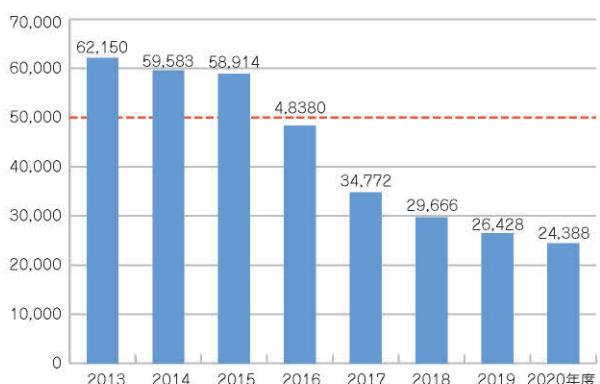
2030年目標

「CO₂排出量 65%削減」

2030年までのCO₂排出量削減目標として、みやぎ生協・コープふくしまは、国の基準である「2013年比40%」より厳しい「2013年比65%」を目指しています。

具体的には、地球温暖化係数（※1）のきわめて低い自然冷媒(CO₂冷媒)を使った冷凍・冷蔵設備の導入、電気自動車やBDF（※2）車両の導入、再生可能エネルギー電力比率の高い電力への切り替えなどに取り組んでいます。こうした工夫により、2020年度末時点で、「2013年比60%削減」に到達しています。

CO₂排出量 (t-CO₂)



※1大気中に放出されたときに、一定時間内に地球に与える温暖化への影響の比率。

※2使用済み食用油を原料にした軽油の代替燃料。Bio Diesel Fuelの略。



再生可能エネルギーの普及拡大

● 再生可能エネルギー発電への投資



太陽光発電設備、廃食油を燃料としたSVO (Straight vegetable oil) コージェネレーション発電機を店舗、共同購入センター、本部へ設置しています。また、秋田県の風力発電事業や岩手県野田木質バイオマス発電事業などへ出資参画し、東北各地での再生可能エネルギー事業の拡大に努めています。



太陽光発電設備、廃食油を燃料としたSVO (Straight Vegetable Oil) コージェネレーション発電機を店舗、共同購入センター、本部へ設置しています。また、秋田県の風力発電事業や青森県・秋田県・岩手県の木質バイオマス発電事業などへ出資参画し、東北各地での再生可能エネルギー事業の拡大に努めています。

■福島市岡島ソーラーシェアリング発電所

農産物を栽培しながら太陽光発電を行う「ソーラーシェアリング」事業。福島県福島市岡島地区でブドウを栽培している長谷川農園さんの農地にソーラーパネルを設置し、売電収入の一部を信達青果生産出荷組合連合会に寄付しています。



● みらいとくらしにやさしい COCOENE(ココエネ)



太陽光、風力、水力、バイオマスの自然エネルギーにより発電されたFIT電気の構成比が86.5%（2019年度実績）の「ソフトでんき」と「コスパでんき」の2つのプランから選べるコープのでんきです。自然のエネルギーで発電されたFIT電気の利用を広げることで、再生可能エネルギー発電の拡大、エネルギー自給率向上などに寄与します。

ソフトでんき電源構成実績（2019年度）



(※) この電気を調達する費用の一部は、当社以外のお客様も含めて電気の利用者が負担する賦課金によって賄われており、当社が販売するFIT電気は、CO₂排出量について、火力発電なども含めた全国平均の電気のCO₂排出量をもった電気として扱われます。

● 共同事業 「地域連携・低炭素水素技術実証事業」

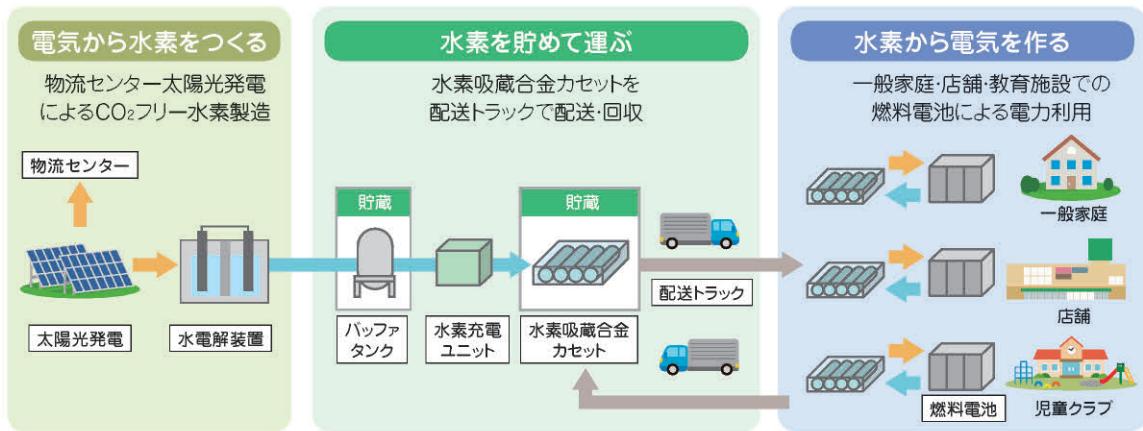


環境省が進める「地域連携・低炭素水素技術実証事業」の一環として、水素エネルギーを利活用するサプライチェーンを構築する実証事業に参画しています。2017年に宮城県富谷市で実証実験を始め、そこで培われたデータを活用し、福島県浪江町で社会実装に向けた取り組みが2021年度に始まります。

事業参画者

- 株式会社 日立製作所 ● 丸紅 株式会社
- みやぎ生協 ● 富谷市または浪江町

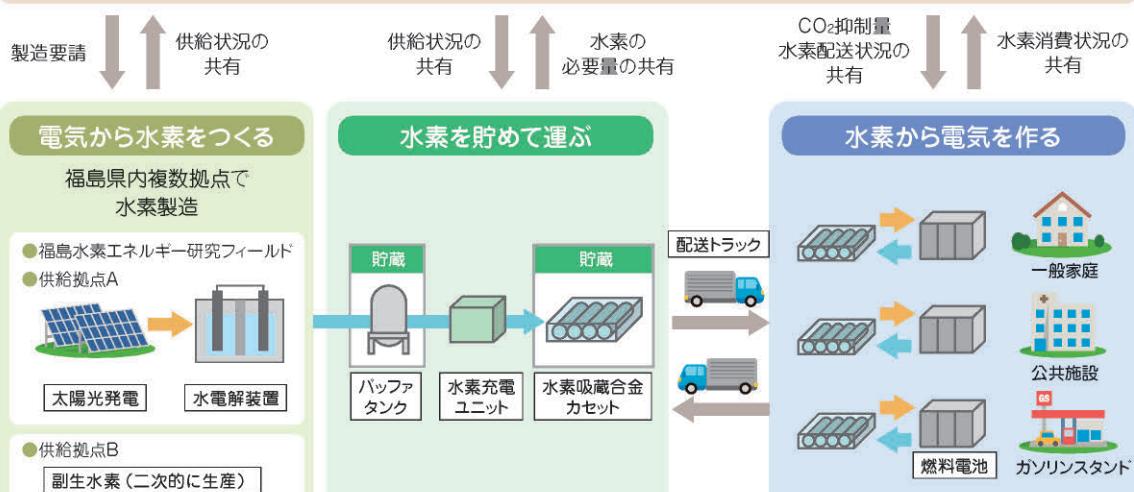
■ Step1 安全性を含む技術実証（宮城県富谷市）



■ Step2 水素サプライチェーンの社会実装（福島県浪江町）

水素アグリゲータ

IoTを活用し、水素の製造量、貯蔵量、消費量の情報を管理し、需要と供給のバランスを調整する



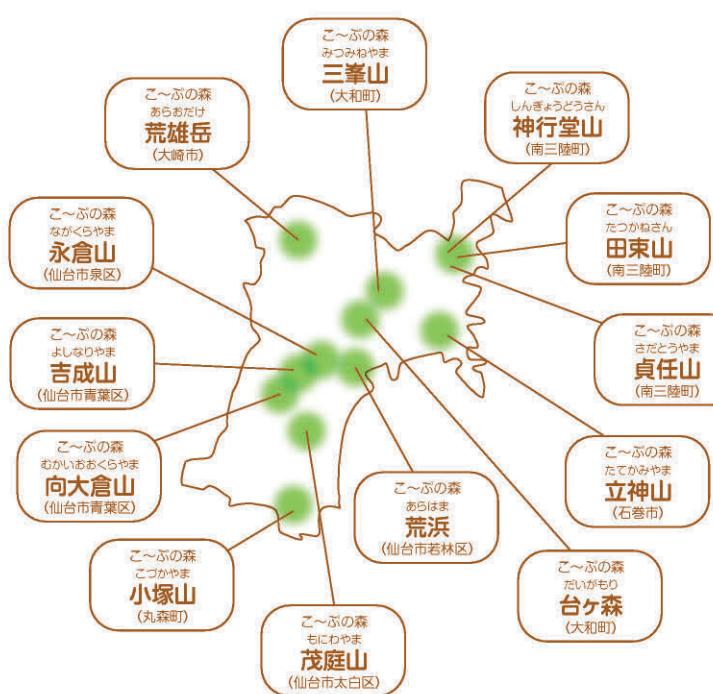


メンバー(組合員)と進める環境活動

● こ～ぶの森



宮城県内の緑と自然を豊かにするために始まった「こ～ぶの森」の活動。アルミ缶や廃食油回収の売却益や「COOP緑の基金」に寄せられた募金を活用し、植林や下刈などに取り組んでいます。また、メンバー(組合員)が参加できる活動として、春の植林体験会、秋の観察会などが開かれます。



こ～ぶの森は宮城県内13ヶ所に広がっています。



こ～ぶの森協賛企業様からの募金贈呈式



秋の森観察会(升沢遊歩道)



平和な社会の実現を目指して



平和な国際社会に向けて

生協は、商品を通じた国際貢献や開発途上国の子どもたちを支援するユニセフの活動を支援しています。また、原爆や戦争の悲惨さに目を向け、平和の大切さについて考える活動も続けています。

● メンバー(組合員)による国際貢献

■ コープ商品を通じた貢献

CO・OPコアノンスマイルスクールプロジェクト

「コアノンロール」や「ワンタッチ芯までロール」をお買い上げいただくごとに、アンゴラ共和国の「子どもにやさしい学校づくり」に1パックの購入で1円が寄付されます。

1パック購入で
1円をユニセフに



CO・OP×レッドカップキャンペーン

キャンペーン期間内に対象のコープ商品を1点お買い上げいただぐとに、1円が国連WFP（世界食糧計画）に寄付されます。寄せられたお金は、毎年指定された開発途上国の学校給食を子どもたちに届けるために使われます。



■ ユニセフ 募金活動

店舗での募金箱やレジ募金、共同購入注文書からの募金などを通じて、メンバー(組合員)とともにユニセフを支援しています。

2020年度 ユニセフ募金額

一般募金 (みやぎ・ふくしま)	7,113,756円
紙パック回収による募金	2,426,490円
ペットボトルキャップ回収による募金	27,056円
合計	9,567,302円

● 平和を守る活動

■ ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える 核兵器廃絶国際署名



核兵器廃絶国際署名
45,580筆
(みやぎ生協37,964筆、コープふくしま 7,616筆)

核兵器のない世界の実現に向けて、2016年から取り組んだ署名は2020年9月の締め切りまでに45,580筆が集まりました

累計 署名数	みやぎエリア	37,964筆
	ふくしまエリア	7,616筆



ガバナンスヒ 概況

み
やぎ
ふ
くしま

経営体制と意思決定

● 最高議決機関 総代会



みやぎ生協・コープふくしまでは、メンバー（組合員）の中から選ばれた「総代」による「総代会」で毎年の方針・事業計画などが決定されます。総代は、事業地域を基にした地域区と学校部職域区（宮城県のみ）の選挙区から選挙で選ばれます。

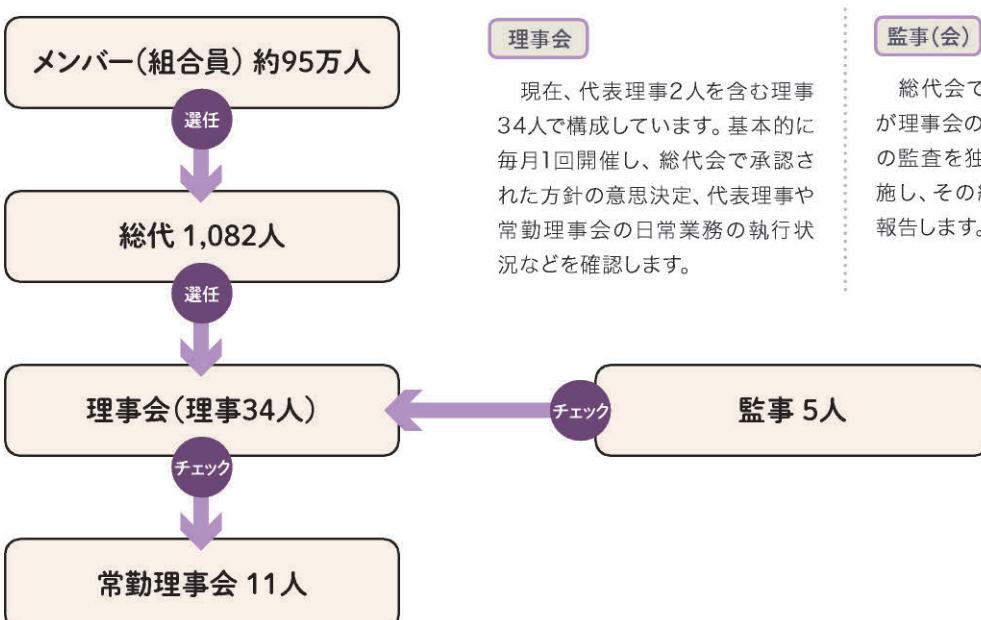
第40回（2021年）総代会 選挙区分 総代定数

	選挙区数	メンバー（組合員）数	総代定数
宮城県地域区	59	689,443人	828人
宮城県学校部職域区	8	9,269人	12人
福島県地域区	12	197,738人	242人
合 計	79	896,450人※	1,082人

※選出基準組合員数は、2020年12月20日現在の組合員数から住所不明及び未登録組員数を除いた数です。

● 業務執行体制

日常的には各役員・本部長・部長が責任を持って、総代会の決定に基づき業務を執行します。また、監事は理事の職務の執行と会計監査などを行っています。



理事会

現在、代表理事2人を含む理事34人で構成しています。基本的に毎月1回開催し、総代会で承認された方針の意思決定、代表理事や常勤理事会の日常業務の執行状況などを確認します。

監事(会)

総代会で選出された監事5人が理事会の業務執行状況や会計の監査を独立した機関として実施し、その結果を毎年総代会に報告します。

2019年 3生協が組織合同（みやぎ生協・コープふくしま・福島県南生協）

● 組織合同の概要

2019年度より、みやぎ生協、コープふくしま、福島県南生協の3生協が組織合同しました。

組織合同による目的は次の4つです。

- ① 事業革新とコスト構造改革
- ② スケールを生かした事業効率化
- ③ 福島地区での事業・組織率拡大
- ④ 人材の確保

「地域のメンバー（組合員）の暮らしの向上に貢献し続ける」という使命実現のため、組織合同という形で連携を強めました。



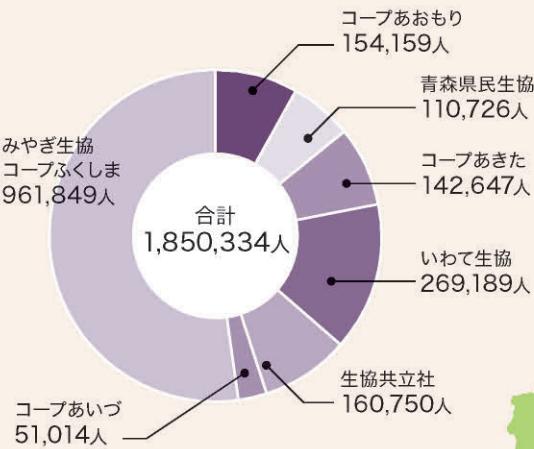
生活協同組合連合会 コープ東北サンネット事業連合

1995年にいわて生協、生協共立社、みやぎ生協が設立した事業連合で、商品仕入れを共同で行うことにより、それぞれの地域で事業経営力の強化を図ることを主な目的としています。現在は、東北6県7生協が加盟し、店舗事業、共同購入・個人宅配事業、食品の安全安心、物流、システムなどの分野で統一・共同が進んでいます。（通称：コープ東北）

■コープ東北のデータ

- 代表
代表理事 理事長 倉田秀昭
- 本部所在地
宮城県仙台市泉区八乙女4-2-2
- 設立
1995年5月12日
- 会員数
東北6県7生協
- 供給高（会員生協への供給）
1,278億42百万円

●会員生協の組合員数（2021年3月20日時点）

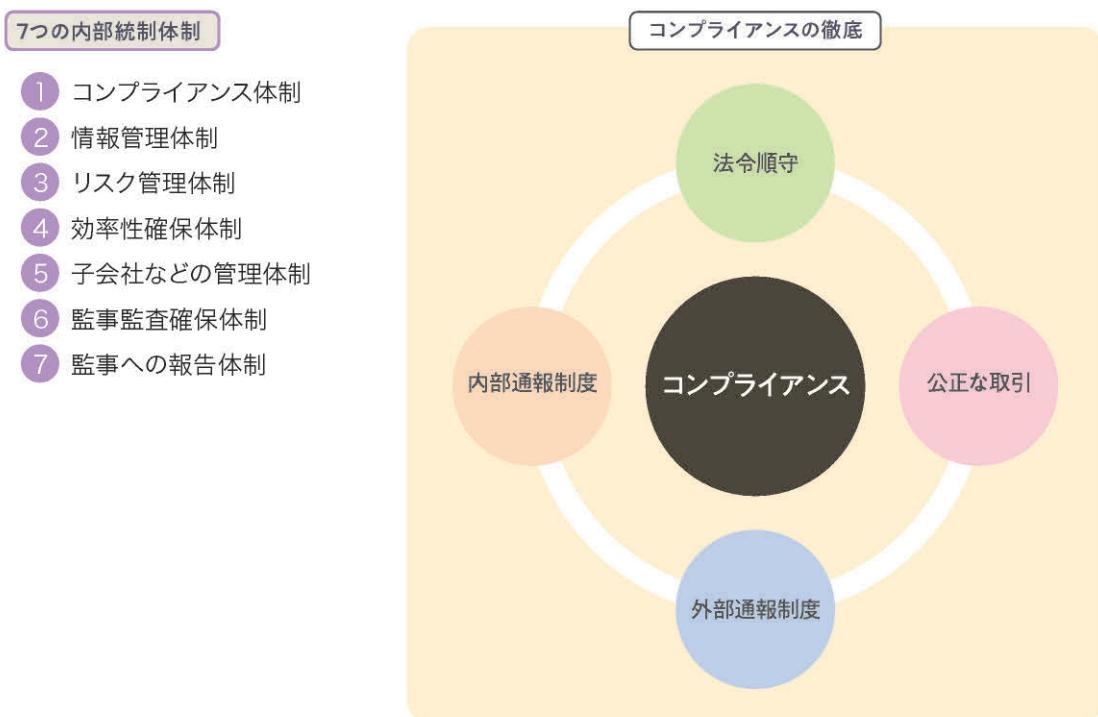


● 内部統制

みやぎ生協・コープふくしまでは、ステークホルダーとの協同・連帯を大切にしながら、業務の効率性、提供する商品やサービスの質の向上に努めています。

■ 内部統制システム整備 基本方針

みやぎ生協・コープふくしまは、内部統制システム整備に関わる基本方針を定め、7つの体制の整備を進めています。これにより、内部統制の4つの目的である、「事業活動に関するコンプライアンスの徹底」「職務の有効性と効率性」「財務報告の信頼性の確保」「資産の保全」の達成をめざして取り組んでいます。

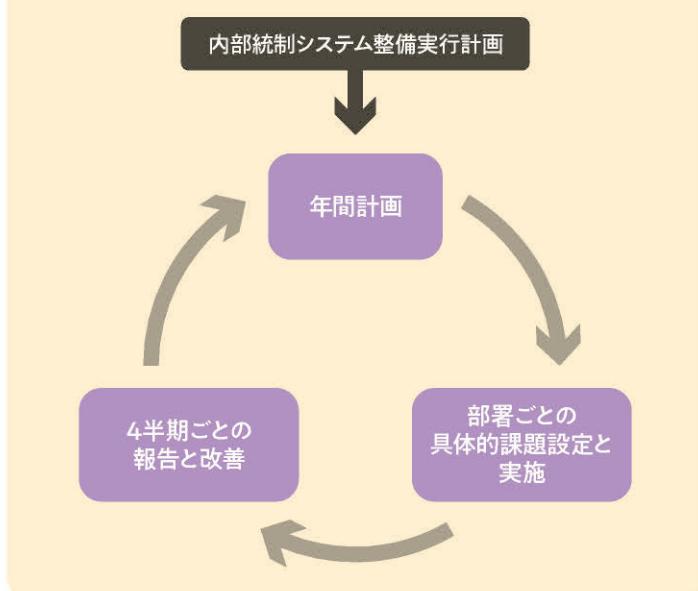


日常的な実行計画

みやぎ生協・コープふくしまでは、上記基本方針にもとづき、毎年「内部統制システム整備実行計画」を策定しています。年間の共通重点課題を設定するとともに、各部に内在するリスクを評価し、年間を通して継続してリスク管理に取り組んでおり、四半期に一度、課題の進捗状況を確認しています。

また日常的に各部でモニタリングを行い、リスク管理が適切に実行されているか検証するとともに、独立した立場から内部監査担当による内部監査を実施しています。

組織全体での内部統制システム整備実行サイクル



● みやぎ生協・コープふくしまの概況

(数字は2021年3月20日時点)

名 称 みやぎ生活協同組合

設 立 1982年3月21日

本部所在地 〒981-3194 宮城県仙台市泉区八乙女4-2-2

メンバーネット数 961,849人

供給高

供給高	
● うち店舗事業	871億3,400万円
● うち共同購入事業	457億7,400万円
● うちサービス事業	18億3,100万円
● うちエネルギー事業	41億 900万円
● うち生産部事業	2億4,400万円
● うち文化鑑賞会	4,000万円

(100万円未満は切り捨て)

店舗・共同購入 事業所数

店舗	みやぎ	ふくしま
● うち直営SM型	47	12
● うちA&COOP (農協と共同運営)	2	0
● うちコンビニ型	2	0
共同購入センター	11	6

職員数

(2021年4月21日時点)

レギュラー職員	1,335
エリア職員	289
嘱託職員	442
パートナー職員	4,373
アルバイター職員	1,756
計	8,195

経営概況

ホームページに
掲載しています。



子会社・関係団体一覧

法人名	主な事業内容
(株) 宮城県学校用品協会	学校用品販売・アフタースクール事業
(株) コープ総合サービス	宅配水・コインランドリー
(株) コープエステート	不動産賃貸
(株) スクラムファイブ	ベーカリー
(株) コープストア	A & COOPの経営
(株) 東北協同事業開発	「古今東北」ブランドの商品開発・卸売
(株) コープコンビニエンス	FamilyMart + COOPの経営
(有) コープフーズ	納豆・豆腐・油揚・こんにゃくの製造・供給
社会福祉法人 こーぷ福祉会	高齢者福祉・介護事業、保育園事業



みやぎ生協・コープふくしま

サステナビリティレポート2021

～持続可能な社会のための活動報告書～

発行日 2021年5月14日

発 行 みやぎ生活協同組合 〒981-3194 宮城県仙台市泉区八乙女4-2-2

お問合せ先

- 機関運営部 TEL.022-771-1590 FAX.022-773-1821
- 環境活動に関する詳細は環境管理室 TEL.022-771-2461

HPアドレス

みやぎ生活協同組合 <https://www.miagi.coop/>
本報告書はホームページにて掲載、ダウンロードできます。



このパンフレットは水なし印刷で印刷し、カーボンオフセットしています。
CO₂排出量は、1部あたり390g
でJWPA-CFCを通じてカーボンオフセットしました。

